

コーディネーターニュース 2016年2月号

第2ゾーンロータリーコーディネーター 金杉 誠

日本ロータリー100周年に向けて

日本のロータリーは1920年10月、東京ロータリークラブが誕生したことに端を発します。初代会長は米山梅吉氏、幹事は福島喜三次氏が選ばれましたことは、皆様良くご承知のことと思われまします。従いまして東京オリンピックの年2020年に、私たち日本のロータリーは100周年を迎えることとなります。もう既にロータリーの友では、「100周年記念誌編集委員会」が神崎正陳委員長の下立ち上がっておりますし、「日本のロータリー100周年委員会」も北清治準備委員長（直前RI理事）の下、東京ロータリークラブとの打ち合わせ等の活動を開始しております。

勿論100周年に向けて日本のロータリー活動を一段と活性化することが、私たちロータリアン一人一人に課せられた最大の課題であることは言うまでもありません。そのような趣旨で、昨年12月に杉谷RI理事が召集され、ラビンドランRI会長はじめとして世界と日本のシニアリーダーが集まって、東京で開催されました、ロータリー研究会に於きましても、第1セッションで「日本のロータリー100周年に向けて」と言うパネルディスカッションが開かれました。このセッションでは北直前理事がモデレーターを務められ、共に3年目のコーディネーターであります、第1ゾーン岩渕RRFC、第3ゾーン岩永RPICそして私がパネリストを務め、それぞれのコーディネーターから見た現状の課題と提言を、90分間に亘ってお話をさせて頂く機会を頂戴しました。

冒頭、北モデレーターから「2010年以来RI理事会は、ロータリーの戦略計画を掲げております。ロータリーがこれからもダイナミックな組織でありつづけ、世界中の地域社会に貢献していくための将来への指針となるのがロータリーの戦略計画です。ロータリー躍進の担い手となるのはクラブであります。クラブや地区の活性化の手法として示されたものです。」との戦略計画の明快なご説明がございました。それを受けまして私たちが現状についての課題について発言したのち、北モデレーターが2020年までの5年間で、日本のロータリー活性化のためにどう使うかの重要性や、あくまで主役であるロータリークラブが活性化する為に、コーディネーターや地区からの支援、RIのリソースやツールの活用などによって、クラブが未来への計画を立て、新しい手法を取り入れ、活発な奉仕活動を実践することの重要性について触れられました。

発表が終わったのち、ラビンドランRI会長に呼び止められ、会長の部屋で杉谷理事や近隣諸国の理事も入れて、1時間近くに亘って意見を求められました。RI会長の日本のロータリーに対する関心の深さを改めて思い知らされた次第です。私たち日本のロータリアンが、今後どのように戦略計画を実行していくかについては、世界中のロータリアンが注目しているわけですので、しっかりと結果を出していかないとつくづく思いました。皆様方の一段のご理解とご協力をお願いいたします。ご興味のある方は、研究会の報告書が後日各ガバナー事務所の送られると思いますので、ご覧いただければ幸いです。